

Dentsply Sirona REPORT



FC24デンタルストア

北海道に、4世代に渡り歯科医師の系譜をもつ歯科医院がある。
先々代は昭和4年に小樽市で開業し、戦後、北海道歯科医師会会長を務めあげた。
3代目となる館山佳季(たてやま よしき)先生は千都世(ちとせ)先生と共に、
「FC24 デンタルストア(札幌市)」「館山歯科東町医院(岩見沢市)」を展開し、
町立の歯科医院をもサポートしている。4代目となる彰人(あきと)先生は、
令和という新しい時代に向け、どのような舵取りをするのか。
その医院継承にまつわる思いを伺った。

デンツプライシロナ株式会社

本社/〒106-0041 東京都港区麻布台1-8-10 麻布借成ビル

支店・営業所

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| ■札幌支店 Tel: 011-709-5800 | ■大阪支店 Tel: 06-6243-6636 |
| ■仙台支店 Tel: 022-266-4020 | ■広島支店 Tel: 082-546-2301 |
| ■東京支店 Tel: 03-5148-7895 | ■福岡支店 Tel: 092-518-1800 |
| ■横浜支店 Tel: 045-440-1521 | ■盛岡営業所 Tel: 019-604-2340 |
| ■埼玉支店 Tel: 048-799-2931 | ■庄内営業所 Tel: 0235-29-1217 |
| ■名古屋支店 Tel: 052-251-8467 | ■静岡営業所 Tel: 054-653-2711 |

BT 6311PD

開業90年の歯科医院 4世代を通じて「変えてきたこと」「変えなかったこと」

館山佳季先生は、国内デンタルインプラントの第一人者であり、プロネマルク博士の薫陶を直に受けた数少ないドクターの一人である。その口腔外科一筋というイメージに相反し、現在は予防と小児を中心に医院を展開している。その変遷の理由と真意に迫る。

「生涯に渡り快適に機能する口腔健康を維持する」



第一としてインプラント治療を行ってきました。そして時代はスペシャリストがフォーカスされ、エンドや矯正など専門分野の棲み分けが明確になってきました。それがここ数年、千都世先生の言う超高齢化となってきて、高齢歯科学というより「口腔内科」として、“全て”を診る時代へと変遷してきたのではないのでしょうか。

佳季先生 30年近く、機能不全を補うインプラント治療を行ってきました。しかし超高齢化社会の今“生涯に渡って”、となると乳児幼少期、ひいては妊娠時から予防を始めていかないと生涯を自身の歯で生活することが難しい、ということが分かってきたのです。現在のFC24デンタルストアは、その「小児から予防する」をミッションに5年前にリニューアルしました。

千都世先生 館山歯科東町医院は、まさに地域密着のホームドクター的な役割。都心部に比べて高齢化のスピードが早く、日本社会の未来を映しているかのような地域です。だからこそ、正しい情報を伝えより良い治療を提供することが重要だと思っています。

佳季先生 東町医院はまさに日本の未来のモデルケース。人口減のスピードが非常に早い。私は、今まで「噛めること」を患者ニーズの

千都世先生 一例ですが、矯正分野でも気道を診ることの重要性は以前より言われていました。当時は水平・平面をパッと見る程度でしたが、実際には座位、仰臥位、嚙下でも状況は全く変わります。現在は、CTデータによりボリュームで診ることが可能となりました。幸い、私たちはそのような實際を目の当たりにすること、スクリーニングをすることができました。まさに「歯科医科連携」です。特に小児の場合、その後の人生が大きく変わる位のことでないでしょうか。

佳季先生 あえて乱暴な言い方をすると、「病気がかたが行くのが医科」「病気ではないかたが行くのが歯科」かもしれません。私たちが鋭いセンサーを持っていたら、様々な早期発見が可能となります。なので、今までの「長く噛めるようにする」という考えから「長く口腔健康を維持する」へとコンセプトが変わってきたのです。



若さとは、可能性であり、先取であり、覇気である。あるいは、野望であり、我執であり、漫然かもしれない。30才を超え、館山彰人先生は、歴史ある歯科医院をいかにハンドルしていくのか。

デジタルデンティストリーは誰のためか

彰人先生 私というより、両親がもともと新しい物好きなのかもしれません(笑)。例えば CEREC。以前のバージョンから現行機種までを一通り扱ってきましたのでその進化は肌で感じています。現在の機種は、適合、マテリアルの選択肢、ワークフロー、どれをとっても“これはすごい”、というのが実感です。加えてインプラント治療では、シミュレーションに始まり、ガイド、アパットメント、上部構造までがシームレスに製作することが可能です。両親は、専門医として難症例や高度な治療をおこなってきましたが、こういったデジタルを用いた治療、手技を超えたより平準化された治療を提供することが、目下の役割だと思っています。

佳季先生 私たちは、長い時間とお金をかけて国内外問わず自ら情報を取りに行き、勉強をしてきました。現在では、ほんの数ヶ月で同等の治療予後を得られる手技が、比較的容易に身に付きます。これは決して悪いことではなく、医療の進化だと思います。その進化は患者さんの



ためであり、治療結果はもちろん、要する時間や治療費にも恩恵をもたらすと思います。

彰人先生 言うまでもなく、対象とするのは患者さんであり、基本的な知識と対処法を身に付けていないと付け焼刃になってしまいます。重大な判断ミスに繋がります。今は、進化し続けるデジタル分野に対して常にアップデート、追い付かねばならない、そして対象とする患者さんは何も変わらない。その狭間で勉強し続けるということは、実は両親の経てきた苦労以上のものではないかと思っています(笑)。



館山 佳季 先生

1984年 北海道医療大学歯学部 卒業
1993年 館山歯科東町医院 開業
1997年 サッポロファクトリーデンタルクリニック 開設
2013年 FC24 DENTAL STORE 開設
2017年 浦臼町歯科診療所 開設
日本歯周病学会 / 日本口腔外科学会 / 日本口腔インプラント学会認定医 / 日本顎咬合学会 / プロネマルクシステム インストラクター



館山 千都世 先生

1984年 北海道医療大学歯学部卒業
同大学麻酔科助手
1993年 館山歯科東町医院理事長
日本抗加齢医学会専門医 / 日本矯正歯科学会
日本成人矯正歯科学会 / 日本舌側矯正歯科学会
日本顎咬合学会 / 北海道医療大学歯学部臨床教授



館山 彰人 先生

2013年 北海道医療大学 卒業
2014年 北海道大学 歯周歯内療法学教室 所属
2018年 北海道大学大学院 修士 歯学博士
2018年 FC24デンタルストア 勤務
日本歯周病学会 / 日本歯科保存学会
日本顎咬合学会

歯科医療は日々変化する。それは新たな製品やソリューションのリリースであり、分野のフォーカスの変遷でもある。と同時に、生活者を取り巻く環境も日々変化する。その変化へ対応していくためには、

「変えてきたこと」と「変えなかったこと」

佳季先生 人間を対象とする医療では「おもいやり」と「ホスピタリティ」が何よりも優先されます。

千都世先生 「おもいやり」でいえば、患者さんのために正しい情報を提供し、患者さんが納得して選択した治療方法で最善を尽くすということです。「ホスピタリティ」とは、言い換えればコミュニケーション。分かりやすい言葉で丁寧に伝える。理解いただくまで説明する、です。

彰人先生 両親の仕事を手近に接してきたので、おのずと同じ考え方は持っています。しかしまだ未熟というか、毎日多くの患者さんを診ていると、どこかに寄りかかると“おざなり”があるので、と思う瞬間があります。その時は、必ず自分を自戒し受領することを心がけています。そして、今まで正しいと思っていた知識も、解剖学的研究や生理病理薬理の進化、デジタル技術の進歩によって変わるかもしれない。そうしたらすぐに考えを正さないといけない、と思

ています。一つ、両親と考えが違うとすれば、無駄が本当に嫌なのです(笑)。最近の若者は…と言われそうですが、効率と合理性を追求したいのです。なぜなら、余剰なものや遠回りは、患者さんにとってメリットではありません。その時間や工数を、「変化していく医療の進歩」と「変化しない患者さん」の隙間を埋めることに使っていきたいのです。



明るいポップな雰囲気の内には、デンツプライシロナ社製の先進の機器が数多く導入されている。CTイメージングシステム、CAD/CAMシステム「CEREC」、デンタルユニット「Sinius」、アストラテック インプラントシステムなど、ショールームの如きと言っても過言ではない。しかし、新しい製品を使うことを目的とはして

いなかった。「歯科業界の変容」「患者さんを取り巻く環境」「先進の製品・ソリューション」彰人先生への継承「これら4つがシンクロし強固に横串で繋がっていた。先々代が富山から移住してから約100年、北海道に歯科医療を広めたそのフロンティア精神は、現在、医院継承という形で受け継がれた好例ではなからうか。